

事業名 キッズパーク運営

〈拠点〉 758 キッズステーション

対象 乳幼児とその保護者

事業内容

- ・ 選りすぐりのおもちゃや絵本等を備えた環境で、乳幼児を主とした親子の受け入れと交流の促進を行う。
- ・ 利用者と子育ての喜びを分かち合い大変さに寄り添いながら、解決の糸口を共に探ることで、自ら問題解決ができる力を育む。

(参考：<http://www.kosodate.city.nagoya.jp/kids/concierge.html>)

- ・ 多様な子育て、親育ちを支える。
- ・ 地域および様々な子育て情報の収集と提供を行う。
- ・ 関係機関や各種団体との連携を図り、把握課題に適切に対応できる仕組みを築く。
- ・ 子育て当事者の多様なニーズを把握する。
- ・ 親子のための安心・安全な居場所をつくる。

事業のポイント

- ・ 自らが直面する子育て課題に対し、問題解決ができる力を育む。
- ・ 自身の意見が尊重される経験をもつことで自分の子どもの意見を尊重できる。
- ・ 多様な子育て・親育ちがあることを理解し、それぞれの存在を大切に思う。
- ・ 多様な人との出会い、つながりあい、人が創る居場所になること。
- ・ 孤立した子育ての解消・仲間づくり

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

子ども

- ・ ありのままの自分を受けとめる力（自己肯定感）

大人

- ・ ありのままの自分を受けとめる力（自己肯定感）
- ・ 自分の育ちを理解する力
- ・ 子どもの声に耳を傾ける力
- ・ 子どもの声を受け止めわかりやすく発信する力
- ・ 情報を鵜呑みにせず、自分で調べたり考えたりする力（情報リテラシー）

エピソード

「ありのままの自分を愛す」

ある日、キッズパークに1歳3ヶ月のTちゃんとお母さんが遊びに来てくれました。最初は不安そうな顔だったお母さん。「なかなか言葉が出なくて…」と子育てコンシェルジュに悩みを話してくれました。子育てコンシェルジュは話に耳を傾けた後、「これからもキッズパークに遊びにきてくださいね。」と伝えました。Tくんのお母さんはキッズパークに遊びに来るにつれて、子育てコンシェルジュやキッズパークに来

ている他のお母さんと話すようになり、子どもにもいろんな子がいることを知りました。

- 1歳になる前からたくさんおしゃべりする子、なかなかおしゃべりしない子
- ごはんをよく食べる子、食べない子
- 活発な子、おとなしい子
- 人見知りする子、しない子
- 大きい子、小さい子…

日常的に顔を合わせる友だちや家族には相談しづらいことを、『キッズパーク』でならば話すことができます。たくさん悩んでいた T ちゃんのお母さんも子育てコンシェルジュと話し、自分の気持ちを認めてもらう経験をしたり、T ちゃん以外の子どもの育ちを見たりすることで、少しずつ子どもとも向き合えるようになりました。いつだったか、T ちゃんのお母さんが言いました。

「私、T ちゃんがどんな子だっていい。この子がどうであれ、受け止めたい。T ちゃんは T ちゃんだから。」悩むことは悪いことではありません。ありのままの自分を誰かに認めてもらうことで初めて、それぞれが持っている凸凹を理解することができます。誰かと出会い、あそび、つながることのできる『キッズパーク』。いつでも、あそびに来てくださいね。

